

平成21年度 シラバス	学年・期間・区分	2年次・通年・A群
	対象学科・専攻	機械・電気電子・電子制御・情報・土木工学科
倫理 (Ethics)	担当教員	中村 隆文 (Nakamura, Takafumi)
	教員室	一般科棟3階 (tel.42-9043)
	E-Mail	
教育形態 / 単位の種別 / 単位数	講義 / 履修単位 / 2単位	
週あたりの学習時間と回数	授業 (100分) × 30回	
〔本科目の目標〕 1) 青年期の特質と課題を理解できる。 2) 先達の思想について、その基本事項を理解できる。 以上によって、青年期における重要な課題の一つである「自己を客観的にとらえ、自己の生き方を模索するための自覚的態度を養う」ことが本科目の目標である。		
〔本科目の位置付け〕 1年次の「地理」、 「歴史」の基礎知識、およびスタンダードな応用倫理学のテーマを前提として、下記の授業項目にそって個々の問題を考察し、検討していく。また3年次の「政治・経済」、4年次の「倫理学」に関連する基礎知識を学ぶ。		
〔学習上の留意点〕単に諸項目の暗記に終わることなく、関心のあるテーマについては、レポートで理解を深めて欲しい。		
〔授業の内容〕		
授 業 項 目	時限数	授 業 項 目 に 対 す る 達 成 目 標
第1章 青年期の課題と自己形成 1. 青年期の意義 2. 青年期の課題と生き方	4 4	マージナルマン、モラトリアムなど、青年期特有の諸問題を理解できる。 アイデンティティや自己実現などの重要性を理解できる。
第2章 人間としての自覚 1. 哲学と人間 前期中間試験	8	ギリシア・ヘレニズム・ローマ・中国思想の特質を理解できる。 第1章と第2章1節について達成度を評価する。
2. 宗教と人間 3. 芸術と人間	4 2	ユダヤ・キリスト教、イスラム教、インド思想、仏教などを理解する。 芸術と人間性との関わりについて理解する。
第3章 国際社会に生きる日本人の自覚 1. 日本人の精神風土 2. 外来思想と日本の伝統思想 3. 西洋思想と日本人の近代化 4. 国際社会に生きる日本人の自覚 前期期末試験	2 4 4 2	日本古来の自然観・世界観を理解する。 仏教受容と、その後の日本独自の文化形成について理解する。 明治以降の近代日本について理解を深める。 第二次世界大戦以降の現代日本について理解を深める。
第4章 現代を生きる人間の倫理 1. わたしたちの「いま」 2. 人間の尊厳 3. 民主社会の倫理 4. 新たな人間象の模索 5. 自然や科学技術と人間のかかわり 後期中間試験	2 4 2 2 2	現代における合理主義・人間中心主義の功罪について理解する。 西洋近代における倫理思想について理解を深める。 市民社会の成立に関わる各種社会思想についての理解を深める。 近代以降、「主体性」がどのように変貌してきたかを理解する。 近代から現代までの各種科学観について理解する。
6. 民主主義の成熟のために	2	フェミニズムやロールズの正義論について理解する。
第5章 現代の課題を考える 1. 生命倫理 2. 環境と環境倫理 3. 変容する家族 4. 情報社会の中の人間 5. グローバル化する社会の中の人間 6. 豊かな社会とは何か 後期期末試験 答案返却・解説	2 2 2 2 2 2	インフォームドコンセントやQOLなどについての理解を深める。 環境倫理におけるさまざまな問題の背景について理解する。 家族・コミュニティーの変化、人生観の変化について理解する。 情報化社会における各種問題について理解する。 グローバル化のもとで生じるメリットと今後の課題について理解する。 人類にとっての「豊かさ」について、さまざまな角度から考え、理解を深める。
〔教科書〕『倫理』（平木幸二郎 ほか7名、東京書籍、2008）		
〔参考書・補助教材〕 必要な資料文献は適宜プリンとして配布する。		
〔成績評価の基準〕 中間および期末試験成績（80%）とレポート（20%） - 授業態度（上限20%）		
〔本科（準学士課程）の学習教育目標との関連〕 1-a, 4-a		
〔教育プログラムの学習・教育目標との関連〕		
〔JABEEとの関連〕		